

植物科学シンポジウム2026

「植物科学による生産性向上の可能性を探る」プログラム

開催日時： 2026年11月30日（月） 10:00～17:30（開場9:30）
 開催場所： 東京大学 弥生講堂 一条ホール（定員300名）
 開催形式： オンサイトとZoomウェビナーによるハイブリッド開催
 その他： 参加無料（事前申込によるクローズド形式）

※敬称略

10:00～10:05	開会挨拶 佐藤 宏之（農業・食品産業技術総合研究機構）
10:05～11:45	午前の部
10:05～10:30 (25分)	岡田 将誌（国立環境研究所） 「植物の水利用から考える将来の食料生産～気候変動下における全球作物モデルによる評価～」
10:30～10:55 (25分)	小川 大輔（農業・食品産業技術総合研究機構） 「近代水稻品種の多収性を支える遺伝子組み合わせ」
10:55～11:20 (25分)	梅澤 泰史（東京農工大学） 「リン酸化プロテオミクスで切り開く植物の環境応答メカニズム」
11:20～11:45 (25分)	反田 直之（大阪公立大学） 「植物の食害防御におけるホウ素の役割の検証」
11:45～13:00	（昼休み）
13:00～17:25	午後の部
13:00～13:25 (25分)	三輪 京子（北海道大学） 「翻訳制御を活用した新たな育種技術の開発」
13:25～13:50 (25分)	太治 輝昭（東京農業大学） 「耐性のことは耐性植物に聞け～シロイヌナズナ野生系統から耐塩性の技を学ぶ～」
13:50～14:15 (25分)	河合 翼（農業・食品産業技術総合研究機構） 「気候変動対応型水稻の創出に向けたイネ根系デザイン」
14:15～14:40 (25分)	鐘ヶ江 弘美（農業・食品産業技術総合研究機構） 「植物科学とデータ科学が拓く育種の未来～育種支援システムNAROBSSの開発と社会実装～」
14:40～14:50	（休憩）
14:50～15:15 (25分)	郭 威（東京大学） 「栽培・育種を支えるフィールドフェノミクス：高効率な観測から農業フィジカルAIへの展望」
15:15～15:40 (25分)	磯部 祥子（東京大学） 「植物を「見る」「読む」「予測する」～AI時代の園芸育種～」
15:40～16:05 (25分)	峰野 博史（静岡大学） 「AI・IoT・デジタルツインによるスマート施設園芸の実現に向けて」
16:05～16:30 (25分)	中道 貴也（AGRI SMILE） 「バイオスティミュラント普及活動の現状と課題」
16:30～17:25	各省庁等の取り組み紹介（文部科学省、農林水産省、NEDO、環境省） および 総合討論
17:25～17:30	閉会挨拶 出村 拓（奈良先端科学技術大学院大学）
17:30～	情報交換会（弥生講堂ロビー）：参加費1,000円